

団体名:ハピサン BOOKS

活動名:本と一緒にコミュニティスペース作り

日時:令和3年1月25日(月) 10時00分 ~ 14時00分
場所:ハピサンBOOKs(南区呼続)

◆団体の紹介◆

親が読み聞かせをするとき、子どもの眼差しはとても輝いています。その輝きを大切にしていきたい。出会った本によって人生が変わることもある。本により、様々な知識や感情が蓄えられ、やがてコミュニケーションの力となります。本に出合える場をできるだけ多く、そして本を介してコミュニティが作られる場があると、その街はとてもいい雰囲気になるのでは?と思いから、結成された団体です。

■活動の内容■

ポップな看板が案内する先には、日の当たる一軒家。2月にもかかわらず、日が当たり風がなく、心地のよい日です。庭先では、ウクレレを弾き歌う方、簡易のセットでコーヒーを入れる方。ハピサンBOOK



sがある南区呼続は、東海道沿いの歴史あるまち。最近では、空き家となる家もちらほらあり、ここもその一つです。最近の家にはあまりない「縁側」があったり、昔風の模様入りガラスやタイル、壁には古い振り子時計など、懐かしい雰囲気です。そこに、集まった方の手で、本棚や看板をつくって、ペンキを塗ったり絵をかいたり、つい立ち寄りたくなるような、心地の良い空間づくりがされていました。

今日は、開け放された縁側の奥に、数組の親子が集まっています。その中には、ハイハイしている赤ちゃんもいます。次に行うイベントの相談をする日だということで、皆

さんでアイデアを持ち寄っていました。

この色鮮やかな本棚は、ワークショップイベントをひらいて、参加者の手で作成、色塗りされたもの。他に読み聞かせを行ったり、立ち寄った方が貸出カードを作成し、本を借りていくこともできます。

最近「まちの居場所」というところが、少しずつ増えていますが、初めての場所に入っていくのは、誰でも勇気がいるものです。この活動では、それを本が手助けしてくれる。ゆるやかに静かだけれど、こんな空間があるだけで、まちは着実に居心地の良い場所になっています。



このようにリラックスして滞在できる場所がたくさん増えたら、子どもからご高齢の方まで、多くを語り合わなくとも、ゆるやかにつながり顔見知りになれる。本のつないでくれる人のご縁、その可能性を感じる活動でした。